

市長記者会見記録

日時：2026年4月20日（月）14時00分～14時23分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《扇島地区のクレーン事故等について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入ります。

まずは、幹事社様からよろしく願いいたします。

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。お誕生日おめでとうございます。

【市長】 ありがとうございます。

【東京（幹事社）】 お誕生日当日に会見を設定していただいたのに残念な話題からになってしまって恐縮なんですけれども、先日、JFEの敷地内で大きな事故がありまして作業員5人の方が巻き込まれましたけれども、この事故に対する川崎市のこれまでの対応について、あと事故そのものについての市長の受け止めを教えてくださいませんか。

【市長】 まず、亡くなられた3名の方の御冥福を心からお祈り申し上げるとともに、お一人の方がまだ治療中ということで、一刻も早い回復をお祈りしております。そして、何よりもお一人の方が行方不明中ということでありますので、一刻も早い、見つけ出していただきたいという思いでいっぱいです。

川崎市の対応については、事故発生直後から情報収集に努めてということと、消防は救出という形で各局連携して取り組んでまいりましたが、まだ事業者においてその原因は調査中ということでありますので、それをしっかりと見ていきたいと思っています。

【東京（幹事社）】 JFEの高炉の跡地をめぐるっては、大規模土地利用転換が進められているところではありますけれども、この土地利用転換に対する今回の事故の影響をどのように考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 大規模土地利用転換の事業用地の中で起きた事故ということでありますので、非常に大変残念に思っておりますけれども、事業への影響については、まだ全く見えていないというところもありますので、その辺りはしっかり調整していきたいと思っております。今回、事故が起きた場所と、一番最初に土地利用転換が始まっていくところというのは少し場所的に離れておりますので、そこには直接的な影響はないと思っておりますが、その辺りはしっかりと注視していきたいと思っております。

《令和7年度工業用水道事業会計補正予算についての市長の専決処分について》

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。話が変わりまして、先週の環境委員会で上下

水道局のほうから、補正予算の専決処分について報告がありました。上下水道局の中で2つの課が、補正が必要だという認識がなかったということで、こういうふうな形での専決処分は極めて異例ということですが、市長の受け止めに教えてください。

【市長】 非常に単純な事務ミスということで、認識が甘かったということでもありますから、かつ、議会に議決をいただいた案件ですので、ちゃんとした情報が議会の下に議会で審議をされなかったということは、これまでも事例がありましたけれども、より一層緊張感を持ってやっていかなくちやいけないと思っています。しっかり反省して、次につなげていきたいと思っております。

《SNSへの研修資料の投稿について》

【東京（幹事社）】 話がまた変わって、川崎市の新規採用職員が研修の資料をSNSに投稿していたのではないかと見られることが、先週、SNSなどで若干炎上のような形になっていますけれども、市長の受け止めに教えていただけますでしょうか。

【市長】 まず、資料がSNSを通じて出てしまったということ、一部、外部講師の方の個人情報も含まれるということでもありますので、新人職員と思われる人からの投稿ということですので、個人情報の取扱いのことについての認識がまだ非常に甘いということでもありますので、その辺りというのを、しっかり意識を深めていただくということをやっつけていかなくちやいけません。その新人職員だけに限らずですが、昨年度もそうですが、個人情報に関する事務事故は、全庁あるいは委託事業者ですとか、あるいは指定機関のところにもやはり課題があると思っておりますので、改めてこういったことが起きているということ、新入職員だけではなくて、改めて注意喚起をしていく必要があると認識しております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《扇島地区のクレーン事故等について》

【共同（幹事社）】 幹事社の共同通信です。JFEの事故の話にちょっと話を戻させてください。今回、川崎港での事故になりますので、港湾工事に対して、市が令和7年6月5日に許可を出しているようなんですけれども、この時点で市として安全性の確認みたいなものは行うものなのかというのを1点伺えますでしょうか。

【市長】 私の伺っている範囲では、港湾法に基づく事業申請に対する許可ということですので、極めて事務的な話だと伺っています。ということで、関わり方としては非常に薄いという形ではあるので、ある意味、今回、安全性がどうだったのかということは捜査もされているということでもありますので、事業者でのしっかりとした調査と対応について考えていただきたいと思っております。

【共同（幹事社）】 高いところの意味の高所に重機を置いてクレーンの重りを削るみたいな工法が、今回、事業者で行うのが初めてだったというような話も出ているんですけれども、そういった点も含めて、市としては、その把握がどこまでできていたのかという部分については、いかがですか。

【市長】 工法について、知り得る立場にあつて、どこまで私たちが関わるのかというのは、

ちょっと誰か来ていますか、事務方。分かる方はいますか。事務方からでもよろしいでしょうか。

【共同（幹事社）】 はい。

【港湾局】 港湾局になります。御質問にありました、今回、J F Eが採用いたしました重りの上で作業をするといった内容につきましては、施工計画書のほうにはもちろん記載はしてございますが、それが業者さんにとって初めての工法であるとか、そういったものについては申請書類上では判断できかねるものでございまして、私どもといたしましては、適正に安全審査を行った上で港湾局に申請がなされたものと認識してございます。

以上でございます。

《中東情勢の緊迫に伴う影響等について》

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。あと1点、前回の会見でも伺ったことなんですけれども、中東情勢の影響もあって、前回の会見だと、公式的な場での話ではないけれども、市内の建設に関わる業者の方々だとかが塗料の入手とか、細かいところも含めて影響が出始めているということだったと思います。前回の会見から今日の会見までで、市長として認知できている影響が何かあれば教えてください。

【市長】 幅広い業種で影響が出てきていると聞いています。例えば製造業、農業、建設、設備、運輸、医療・福祉業界、こういったところから、燃料の契約が制限されたりとか、あるいはその価格が上昇していると、あるいは納期の延長がなされているということでありまして、4月13日から16日にかけて、本市のほうで各局を通じて各種業界団体の皆さんに、どういう影響がありますかということについてアンケート調査を行っています。網羅的なアンケート調査にはなっていませんので、各局がどこの業界にどの程度までお願いしているのかというのは、各局によって大分差があります。ざっくりいくと250件ぐらい返事が返ってきているんですけども、そのうちのほとんど、230件程度は医療関係の皆さんからの御意見ということになっていまして、かなり偏りがあるということではありますが、アンケート以外に、各局から各業界団体、関係団体にヒアリングを行っておりまして、そういったところから、今申し上げたような納期の延長ですとか、購入、個数の制限ですとか、価格の上昇といったこと、燃料とかあるいはプラスチック由来のものに影響が出てきていると聞いています。また、業界によっては全く、全くいうか、あまり大きな影響がまだ出ていないというところもあったりして、かなりばらつきはあるのかなと思っています。皆さん、先行きに対する心配というか、今後どういうふう to 供給されていくんだろうかということに対する心配があるということです。

【共同（幹事社）】 ちなみに、そのアンケートは庁内で現状把握するためのものであって、何か公表とかを考えているものではないですか。

【市長】 そういうことではないです。今の状況をしっかりとそれぞれの局で把握して、今後の対応について考えていく参考資料とするものであります。

【司会】 幹事社様はよろしいでしょうか。では、幹事社様のほかに御質問される場合には

挙手をお願いいたします。

神奈川新聞さん。

《下水の溢水事故について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、昨年5月に川崎市宮前区鷺沼のほうで下水管の汚水が流出して、あるショップが、店を結局、この4月に仮店舗のほうも閉店することになりましたと。市長として、改めてあの事故というのはどのように受け止めていますか。

【市長】 この前の議会でも議員から質問が出ておりまして、そのときの状況から変わっておりませんが、市のほうの過失だということでもありますので、大変遺憾に思っておりますし、被害に遭われた方に対しては大変申し訳なく思っているところです。それについて今対応させていただいておりますが、当初からすると、なかなかお互いの主張がかみ合わないところになっておりますけれども、現状でもそのお話しは続いていると思って、誠意を持って対応していくということでもあります。

【神奈川】 結局、これからライフラインのほうも老朽化が、全国各地の問題だとは思いますが、進んでいく中で、今後、保険とかの見直しについてなどは何か考えられたりとか、もう検討に入っていたりするのでしょうか。

【市長】 現状については、保険の制度の件というのは、現時点では何か変更するという予定はございません。いろいろ全国でも老朽化の話はありますけれども、上水にしても下水にしても、本市においては大都市の中で最も進んだ更新を計画的に進めておりますし、これからもそういった対応はしていかなくちゃいけないと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 そのほかに。

読売新聞さん、お願いします。

《SNSへの研修資料の投稿について》

【読売】 読売新聞です。先ほどお話に出ました新入職員の方によると思われる情報流出事件のことなんですけれども、これは市のほうで、もう確実に新入職員によるものという確認がされたのか。もしそういうことであれば、何らかの処分は考えていらっしゃるのか教えてください。

【市長】 ある程度のところまでは絞り込めているということの表現が正しいか分かりませんが、ある程度のところまでは特定できているということになりますが、個人を特定して、これについて処分するという考えは持っておりません。新入職員ということもありますので、しっかり個人情報扱いというのはどういうことであるのかということ研修していくとともに、しっかり呼びかけるということと、先ほど申し上げたように、全庁職員に対しての改めての喚起というものを促していくにとどめたいと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

東京新聞さん。

《扇島地区のクレーン事故等について》

【東京（幹事社）】 東京新聞です。先ほどのJFEの敷地の大規模土地利用転換に関連して、GX戦略地域の選定が、予算の関係もあって1次の発表が遅れているのかなとも思うんですけども、1次と2次で、川崎市に対する決定が出た時点で市のほうからも報道発表いただけたらというのと、あと、川崎市に対する最終的な決定が出た時点で市長のコメントをいただくことは可能でしょうか。

【市長】 最終決定がなされたときにはもちろんのことでありまして、その公開が国のほうで許されている範囲内で、しっかりとその節目節目にコメントなり何なりというのはさせていただきますと思います。

【東京（幹事社）】 よろしくをお願いします。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

産経新聞さん。

《市立川崎病院における不祥事について》

【産経】 産経新聞です。前回の会見の後にペーパーではコメントをいただいたんですけども、市立川崎病院の不祥事について、改めて生で言ってもらいたいです。

【市長】 ペーパーでも出させていただきましたけれども、本事案が判明した時点でちゃんと謝罪をするということは、ある意味、当然のことだと思いますし、やや内向きというか、理由が、患者様というよりも病院の内輪の論理が先行していたのではないかなと私は思いました。こういったことは、その視点も違うので、そのことについてしっかりと病院事業管理者に申し伝えたい。そして、要はこういった姿勢というものをしっかりと改めてもらうということについて注意をしたところですよ。改めて、健康被害はなかったとはいえ、こういったことに対して不安とかということになってしまったことについて、改めて申し訳なく思っております。

【産経】 今、姿勢という言葉があったんですけども、やはり市立病院に対する信頼が揺らいだ案件だと思うんですけども、今回のように、プロセスに問題があっても結果に問題がなければ患者に伝えてないような案件、そういう姿勢というのはずっと今までにあったんじゃないかという疑念を市民が抱いているんじゃないかと思うんですけども、過去どういう状況だったのか確認するなり、そういう事例があったら謝罪するなりということは考えないのでしょうか。

【市長】 何か具体的な事案があればということでないで、毎日、ものすごい件数の医療行為が行われていて、もしかしたら私がかと全員が思い始めると、全員があれって、私の今受けている治療も本当に大丈夫なんですかということになりますと、ただただ不安を広げて、市民の皆さんのためにも一切ならないと思います。ですから、こういった事案というのは非常にレアなケースだと思いますが、こういった事故、事件というものが起こってしまったことに対して、しっかりと病院としての体制を整えて、そして、疑念を抱かれるということが、信用を回復するために、あらゆることを尽くしてもらいたいと思っております。

【産経】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

時事通信さん。

《大都市制度について》

【時事】 すみません、時事通信社です。特別市なんですけれども、先週14日、神奈川県町村会のほうが神奈川県のほうに特別市の法制化は反対だというような要望書を出されましたけれども、それについて受け止め方というか、恐らく反対されているところというのが、いわゆる特別市になったときに補完機能ですとか、補完というか、総合調整機能とか財政面とかで結構不安視、懸念されているところが多いように思うんですけれども、そこら辺も含めて何か市長が考えられているところをお聞かせください。

【市長】 今回の町村会のコメントについては、神奈川県のしかけによるものですから、特にコメントすることはありませんというぐらいなんですけれども、引き続き町村の皆さんに対しても、これから人口減少の中でどうやってそれぞれの自治体が生き残っていくかといったところに、大都市としての役割、あるいは広域自治体としての役割というのがどうあるべきなのかということについて建設的な議論をしていくということが大事だと思っていて、そのための説明というのは、本市もそうですし、県内3政令市もしっかりと一緒になって理解に努めていきたいと思っています。

【時事】 すみません。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

共同通信さん、お願いします。

《SNSへの研修資料の投稿について》

【共同（幹事社）】 共同通信です。ごめんなさい、話を戻しちゃうのと、細かいところで、情報の流出の件なんですけれども、先ほど情報を流してしまったのが誰なのかというのはある程度まで絞り込んでいるという話あったと思うんですけれども、それは当該資料を持っている人が限られているからということになるんですか。

【市長】 それもありますけれども、あまりその詳細については申し上げませんが、詳しくは。ただ、事実として、かなり絞り込んでいるということは事実です。

【共同（幹事社）】 それもというのは、今、私が申し上げたようなアクセスできる人が限られているというのも理由の……。

【市長】 絞り込んでいく一つのプロセスだとは思いますが。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

東京新聞さん、お願いします。

【東京（幹事社）】 ごめんなさい、その情報の流出の件なんですけれども、ネット上に出ている情報が事実なのだとしたら、困っている同期の職員を助けてあげたいという親切心みたいなものが動機のような気もするんですけれども、一方で、SNSの使い方とか、市の

職員としての立場をわきまえるってという部分で問題になっていると思うんですけども、市長としては、何ていうんでしょう、学生の感覚で、例えばテストの範囲を教えてほしいと言われたから、ここだよみたいな感じで教えてあげるような雰囲気だったのかなと私は感じたんですけども、市長としては、若い職員の感覚というものについてどのように感じられましたか、今回の件を受けて。

【市長】 若い人の感覚ということではなく、やや、こんなことまで注意喚起を促さなくちゃいけないのかといったところに、正直驚きを隠せないというのが私個人的な感想です。情報リテラシーが低過ぎるということだと思います。庁内での資料というものが、誰でもアクセス可能なオープンチャットのところに流していくというのは、常識的に考えるとないだろうと思っているところまで注意喚起しなければならないのかなというところに、ちょっと驚いておりますけれども、事案が発生している以上、そういったところもケアしなくちゃいけない、そういった時代なのかと、やや残念と言わざるを得ないです。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。質問は以上でよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。
(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当